

平成27年 年頭の辞

輝ける工学の未来を築く



学長
波多野 純

明けましておめでとうございます。年末に、赤崎勇・天野浩・中村修三の三氏が「青色発光半導体デバイスの開発」でノーベル物理学賞を受賞されました。とても嬉しいニュースです。

近年のノーベル賞は、基礎理論の発見から授賞まで、30年以上を要するのが普通のようなようです。基礎理論が工学的実験によって実証されて初めて授賞に結びつくからです。

その点、今回の授賞は、比較的短期間で成果が認められました。それは中村博士の努力により製造方法が開発され、製品化に結び付いたからです。LEDの普及は、世界の省エネ化に大きく貢献しました。工学の力が人びとを幸せにする、そんな夢を膨らませることができる研究開発です。

さて、大学教育はグローバル化を目指すべきだと言われます。国際化とも言われます。そこでは、グローバル化と国際化の違いはあまり意識されていませんが、この二つは目指す方向が大きく異なります。

グローバル化とは、世界を統一基準で判断し、共通のルールで物事を進めることです。いっぽう、国際化とは、地域や民族、歴史や文化、言語など、さまざまな違いを認め、それを越えて相手を理解し尊重することです。つまり、グローバル化は世界共通であることとを大切にし、国際化は違いを尊重する発想方法です。

工学の世界はグローバル化だけと思われがちですが、必ずしもそうではありません。秋に開催された「3D・C

ADプロダクトデザインコンテスト」の授賞式で講演いただいた、元ホンダの齋藤和彦氏は、インドで仕事をされてきた方です。彼によると、オートバイのデザインはインドと日本では嗜好が異なり、それに合わせてデザインしなければ売れないそうです。

建築の世界における20世紀のモダニズムは、機能主義やインターナショナルスタイルに代表されるように、価値観の統一を目指してきました。まさにグローバルイズムです。いっぽう、21世紀の建築はさまざまな違いを大切に、尊重する方向へ向かうと思います。そして、そうあるべきです。

私たちが目指す工学は、一人ひとりを大切にする工学です。一緒に輝ける未来を築きたいと思います。

学園の理念が時代を照らす



理事長
柳澤 章

明けましておめでとうございます。今年、2015年は、科学技術、工学にとって、どのような展開がもたらされるのでしょうか。

昨年は、ノーベル物理学賞を日本人が受賞し、後に続く世代を勇気づけてくれました。かつて中村修三さんには宮代キャンパスで講演をいただき、講演を通して学生、研究者ともども熱く激励してくださいました。中村さんは実験装置を手作りすることでも有名です。それがブレイクスルーにつながったのでしょうか。現場・実践をキーワードとする実工学教育を謳う私たちに通じるものがあるように思えます。そして、中村さんのお兄さんは本学の卒業生です。

こうした最先端の研究開発の基礎を

担う初等教育の分野で、昨年、児童一人に一台タブレット端末を持たせるという動きが日本の各地で急速に進展しました。そのねらいは、従来の先生が一方的に知識を注いで暗記するという授業から、学習者相互の学び合いへのパラダイムシフトにあるといえそうです。やはり、これも私たちが実工学教育の中で培ってきた、まずはやってみる、試行錯誤から体験的、実感的に学ぶことを重視する考え方に通じるものがあるといえるのではないのでしょうか。

人間の学びには、他者との対話とモノとの対話が不可欠なプロセスとしてあります。そのことが見直されようとしているのかもしれない。学園の理念が時代を照らすという言い方が

きるでしょう。

日本工業大学は2年後の2017年に50周年を迎えます。1967年に開学し、半世紀におよぶ歩みは本学園にとって、学生諸君の持つエンジニアの資質を開花させ、教育研究に豊かな蓄積をもたらしました。それと一体となつて、日本の、そして諸外国の産業界にとって大きな推進力となってきたといえます。

私たちの学園は、たえず進化を続けています。それは、例えば、卒業された方が訪れると、キャンパスの顔立ちが新しくなって新鮮な息遣いを感じられるとおっしゃることに象徴されます。今年もまた、より学びやすく、充実した教育研究環境の構築に力を尽くしてまいります。

学生生活をよりよきモノへ

情報工学科三年 大川 凌平
(山形県立鶴岡工業高等学校出身)



新年明けましておめでとうございます。昨年は良き一年だったでしょうか。新たな年という節目において、この一年や今までを振り返り、更なる発展へと邁進していきます。

この度第四七代学生自治会中央執行委員会委員長に就任致しました。大川凌平と申します。

私が本学に入学し、学生生活を過ごして早三年が経ちました。その中で中央執行委員会に出会い、こうして活動が続け中央執行委員会委員長という大役を担うことに大きな重責を感じるとともに、自治会が代々築き、引き継いできた想いも重く感じています。

学生自治会の長として学生全体を率い、本学での学生生活をよりよきものにするには、皆様の協力が必要です。皆さんは今、本学の学生生活をどう感じていますか。小さな不満でも少数意見だからと自分の中で引込めてしまっていないでしょうか。そういった小さなことから学生生活は改善していくのではないのでしょうか。

そして、その不満等を解消し学生生活をよりよきものにする為に中央執行委員会は誠心誠意努力していきます。もし、学生生活で何か要望がありましたら、ぜひ中央執行委員会の戸を叩いてください。私達は全力でサポート致します。

最後になりますが、日本工業大学と学生自治会のますますの発展を祈り、中央執行委員会委員長の就任挨拶と代えさせていただきます。

日本工業大学 工学部 平成27年度入試日程

●機械工学科 ●ものづくり環境学科 ●創造システム工学科 ●電気電子工学科 ●情報工学科 ●建築学科 ●生活環境デザイン学科

入試種別	日 程			
	第 2 期			
特別奨学生入試 〔筆記試験、調査書 および面接による選考〕	出願期間	1/ 6(火)※1～1/23(金)※2	奨学生には、1年次の授業料全額(98万円)、または、半額(49万円)を免除	
	試験日	1/31(土)～2/ 2(月) 本学(都合のよい1日を選択)		
	合格発表日	2/ 7(土)		
一般入試	一般入試A		一般入試B	
	出願期間	1/ 6(火)※1～1/23(金)※2	2/ 3(火)～2/13(金)	
	試験日	1/31(土) 本学・郡山・水戸・高崎・柏・東京・静岡 2/ 1(日) 本学・仙台・東京・横浜・新潟・長野・富山 2/ 2(月) 本学・宇都宮・千葉・東京	2/19(木) 本学・東京	
	合格発表日	2/ 7(土)	2/25(水)	
センター利用入試	センター利用入試A		センター利用入試C	
	センター利用入試B		センター利用入試C	
	出願期間	1/ 6(火)※1～1/29(木)	2/ 3(火)～2/13(金)	2/16(月)～3/ 7(土)
	合格発表日	2/ 7(土)	2/25(水)	3/14(土)

※1 インターネット出願は、12/20(土)より受付開始！

※2 本学会場で受験を希望する方で、出願書類を持参する場合には、1/24(土)・26(月)に入試室窓口で受け付けます。

●各入試の詳細はそれぞれの「募集要項」でご確認ください。

【入試チェックポイント】

- ①一年次の授業料全額(98万円)、または、半額(49万円)を免除！入学手続き締切日は3/12(木)まで。〔特別奨学生入試 第2期 他大学との併願可〕
- ②入試奨学金20万円給付！充実の奨学金制度。昨年実績232名！〔一般入試とセンター利用入試の成績優秀者〕
- ③インターネット出願導入！ネット割・検定料割あり！〔特別奨学生入試 第2期・一般入試・センター利用入試〕
- ④全国14ヶ所試験会場 〔一般入試〕
- ⑤2月・3月に受験できます 〔一般入試・センター利用入試・AO入試〕

募集要項(願書)のご請求およびお問い合わせ先 TEL.0120-250-267(入試室) URL http://www.nit.ac.jp/ E-mail:nyu-shi@nit.ac.jp

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集(日本工業大学大学院 社会人特別選抜)

◆大学院工学研究科

博士前期課程 *環境共生システム学専攻 *機械システム工学専攻 *電子情報メディア工学専攻 *建築デザイン学専攻
博士後期課程 *環境共生システム学専攻 *機械システム工学専攻 *電子情報メディア工学専攻 *建築デザイン学専攻

■平成27年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	日 程			
	出願期間	面接試験	合格発表	手続締切
二次募集	平成27年2月5日～2月12日	2月23日	3月5日	平成27年3月10日

お問合せ先：教務部教務課 大学院入試係 TEL 0480-33-7507 URL http://www.nit.ac.jp

日本工業大学 専門職大学院(大学院技術経営研究科技術経営専攻)

中小企業技術経営コース/プロジェクトマネジメントコース/起業・第二創業コース

働きながら学べる専門職大学院 第11期生 募集！

■平成27年度 専門職大学院 入試日程

	出願期間	試験日	合格発表	入学手続締切
第2回募集	1月5日(月)～1月13日(火)	1月17日(土)	1月22日(木)	2月2日(月)
第3回募集	2月16日(月)～2月24日(火)	2月28日(土)	3月5日(木)	3月16日(月)

願書のご請求およびお問い合わせ先：

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-5 日本工業大学 専門職大学院
TEL：03-3511-7591 FAX：03-3511-7594

ISO14年度環境目標達成状況

ISO14年度における環境マネジメント活動は、教職員・学生・学内関連会社の協力を得て、目標をほぼ達成している（表参照）。その活動の一部を紹介する。

- 表No.①持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成するための環境教育プログラムの策定では、「埼玉県環境科学国際センター」の米持真一氏を迎え、埼玉県の環境問題などに関する特別講演「正しく知ろうPM2.5」埼玉の状況と最近の研究」をテーマに開催した。学生・教職員など125名が聴講。
- ④環境に関する研究の推進では、5件の環境分野研究助成金が採択され

た。「エコジョーブレスNo.15」に詳細を掲載。

⑤環境コミュニケーションの推進では、学生環境推進委員会が主体となり環境展「エコプロダクツ2013」に出展。0平方メートルで、夏場は定期的に下草刈りを実施。本活動は5年間継続予定。

⑧電力使用量の削減では目標の15%削減に対し、実績は25.7%削減と目標を大きく達成。震災以降の節電や施設・設備の省エネ改善の効果が大きい。また、4月から9号館屋上に太陽光発電設備57kWが増設され、CO₂削減に寄与。

⑨ガス使用量の削減では、目標の15%削減に対し実績は9.5%削減と目標が未達成。近年の新しい設備（LCセンター・

ボランティア事業」として、学生環境推進委員会が主体となり加須市の利根川堤防に475本の苗木を植樹。面積は5300平方メートルで、夏場は定期的に下草刈りを実施。本活動は5年間継続予定。

⑧電力使用量の削減では目標の15%削減に対し、実績は25.7%削減と目標を大きく達成。震災以降の節電や施設・設備の省エネ改善の効果が大きい。また、4月から9号館屋上に太陽光発電設備57kWが増設され、CO₂削減に寄与。

⑨ガス使用量の削減では、目標の15%削減に対し実績は9.5%削減と目標が未達成。近年の新しい設備（LCセンター・

No.	監視・測定項目	進捗状況・実施記録（1年のまとめ）	検証 (達成率等)	推進担当者 (記載者)
①	持続的発展が可能な社会の実現を担う人材を育成するための環境教育プログラムの策定	環境特別講演会の企画・実施（1月11日） 環境系コア科目の充実と改良の検討とカリキュラム作成および実施 間接影響評価に関する検討 学生にインセンティブを与える表彰制度の検討	○	環境教育 検討部会 環境推進 事務局
②	持続的発展が可能な社会の実現に資する人材・高級化学技術者の育成	環境コア科目「地球環境と人間社会」、「エコ入門」（H26春学期）、「環境と工学・工業社会」（H25秋学期）を実施 実験系環境科目「環境化学基礎実験」（H26春学期）、「環境化学応用実験」（H25秋学期）の実施	○	環境教育 検討部会 環境推進 事務局
③	体験的環境教育の推進	エコ・ミュージアムの推進の継続	○	環境教育 検討部会 環境推進 事務局
④	環境に関する研究の推進	H25年度環境分野研究助成金 採択5件、終了5件	○	環境教育 検討部会
⑤	環境コミュニケーションの推進 (環境関連情報の発信拠点としての役割と環境マインドの醸成)	エコプロダクツ展2013へ出展 エコ大学ランキング 私立大学部門 第1位受賞 エコジョーブレスNo14 WEB発行 エコプロダクツ展2014出展準備 エコ大学ランキングアンケート調査提出	○	環境推進 事務局
⑥	持続的発展が可能な社会の構築にむけた社会・地域との連携、行動の推進	(学内見学 ISO-14合計396名) KDF会員交流会13名、タイKMUTT（キングモンクット工科大学トンブリ校）12名、機械工学科実践機械工学プログラム「平成26年度（第4回）外部評価委員会」5名、学園台自治会97名、私工大懇話会図書館連絡会13名、衢州専業学校10名、JA三井リース株式会社8名	○	環境教育 検討部会 環境推進 事務局
⑦	環境教育（学生環境推進委員会への支援とコミュニケーション）	本年度は「第5回 エコ大学ランキング」で私立大学部門2年連続第1位の栄に浴し、長年の環境活動への評価がなされたという思いと同時に、学生の活動が定着していることに嬉しく思う。これを機に現活動の更なる飛躍と、新たな取り組みの実現に向けて協力していきたい もりづくりボランティア育成事業への参加（5/25,7/8,7/12,8/22 4回参加）	○	学生環境 推進連携 部会
⑧	電力使用量の削減	基準値（H17-19年度平均値：9,159,313kWh） 目標値は基準値15%削減（7,786,416kWh） 実績6,808,148kWh、25.7%削減	○	施設環境 管理課
⑨	ガス使用量の削減	基準値（H17-19年度平均値：697,045㎡） 目標値は基準値の15%削減（592,488㎡） 実績631021㎡、9.5%削減	×	施設環境 管理課
⑩	上水使用量の削減	基準値（H17-19年度平均値：57,358㎡） 目標値は基準値の15%削減48,754㎡） 実績36,807㎡、35.8%削減	○	施設環境 管理課
⑪	紙使用量の削減	目標：前年実績の1%削減（前年実績4,386,300枚） 目標値4,342,437枚 実績4,176,700枚、4.8%削減	○	環境推進 事務局
⑫	廃棄物の削減・適正管理	目標：前年実績の1%削減（前年実績166,562kg） 目標値164,896kg 実績139,930kg、16.0%削減	○	環境推進 事務局
⑬	緑地整備・保全	キャンパス全域の樹木剪定 除草作業、芝刈り込み、 後援会退任理事記念植樹（H25年度）	○	施設環境 管理課
⑭	グリーン調達（NITクリエイトから購入する事務用品についてグリーン調達の推進）	目標：事務用品のグリーン調達の推進（WEB：たのめーる） 金額：一般、13,694,454円、エコ 14,504,463円（調達率 51.44%） 個数：一般7,771個、エコ 8,464個（調達率 52.13%）	○	財務部 NITクリエイト 環境推進 事務局
⑮	安全・環境安全な化学物質の使用・保有管理及び化学廃棄物の保有・排出管理への改良	化学物質管理検討部会開催 11/19、3/17、4/17、6/17（4回） 新・部会員への引継ぎ・内部環境監査 4/21 化学物質取扱い講習会開催 6/26（講習会参加者へ修了証発行）	○	化学物質 管理検討 部会
⑯	エネルギー管理標準による適正使用と法・安全管理・省エネルギー推進	最大電力値・ガス消費最大値・最高気温推移観察 電力需給対策について（省エネ対策）検討実施 節電ポスター（冬季・夏季バージョン）配布実施 省エネ法・温対法に基づく報告書作成・提出	○	エネルギー 使用管理 部会
⑰	教育・研究施設等の効率的・効果的活用及び管理・運営	施設の巡視状況 実施日H26年7月15日、機械ものづくり工学系部門、指摘件数5件	○	環境管理 責任者
⑱	労働安全衛生法に基づく安全衛生の向上	衛生委員会開催（5月30日、6月24日、7月16日、9月24日）	○	環境管理 責任者

エコプロダクツ2014 国内最大級の環境展示会に6年連続出展



今回は12月11日(木)から3日間、東京ビッグサイトで開催された。本学ブースは学生環境推進委員会が企画、運営を担当し、本学の環境関連設備や環境保全活動、同委員会の活動実績についてパネルで紹介。来訪者からは、特に太陽光発電に関する問い合わせが多く、学生スタッフが発電量や発電装置の技術的な質問に熱心に対応していた。

専門職大学院だより

価値づくり経営へ

私は専門職大学院の設立以来、客員教授として8年、専任教授として2年間教鞭をとってきましたが、この10年の間に日本の産業界を取り巻く環境において大きく変わることが2つあります。

まず1つ目が、新興国企業は力をつけ、既に多くの分野で日本企業を凌駕するという状況が生まれています。そして2つ

大学院技術経営研究科・教授 浪江一公

目が、業界の垣根がなくなったことです。例えば、エレクトロニクス業界では、かつての通信機器メーカーは、もはや製造ではなくサービスを生業とするようになり、またかつての家電メーカーはもはや家電メーカーではありません。

私は、このような産業界における大きな変化に日本企業が対応するには、誤解を恐れずに言え

専門職大学院

オープンキャンパス

日時2/7(土)13:00-17:00

会場日本工業大学 神田キャンパス

大学院紹介、模擬授業、パネルディスカッション
キャンパスツアー、在学生とのフリートーク など

TEL. 03-3511-7591 mot@kanda.nit.ac.jp

本来的な「価値づくり」は、現実には対極に位置しています。

私自身、専門職大学院の院生の皆さんには、講義の中でこの「価値づくり」の広い視点を持っていただくよう、引き続き努力していきたいと考えています。

「低炭素まちづくりフォーラム」が開催された。主催は埼玉県地球温暖化活動推進センターで、本学も共催。フォーラムの目的は、低炭素社会の実現に向け、ワークショップやパネルディスカッションを通じて現代のライフスタイルを見直し、課題を発見して今後の取り組みへと繋げること。また、埼玉県地球温暖化防止活動推進員及び県内環境団体、企業、学生の情報交

低炭素まちづくりフォーラム
講演「涼しさを感じる街づくり」
5テーマの分科会で意見交換

11月15日（土）、学生友会館をメイン会場として「低炭素まちづくりフォーラム in 埼玉」が開催された。主催は埼玉県地球温暖化活動推進センターで、本学も共催。フォーラムの目的は、低炭素社会の実現に向け、ワークショップやパネルディスカッションを通じて現代のライフスタイルを見直し、課題を発見して今後の取り組みへと繋げること。また、埼玉県地球温暖化防止活動推進員及び県内環境団体、企業、学生の情報交



基調講演を行う成田教授

委員会、学生など約150名が聴講した。

午後は、学内環境施設見学後に分科会が開催された。①エコ住宅（成田健一教授）、②環境教育（佐藤杉弥教授）、③ごみ問題（雨宮隆教授）、④身近なエネルギー（丹澤祥晃教授）、⑤里山と生きもの保全（宮代町）の5テーマに分かれて活発な意見交換が行われ、環境マインド醸成が図られた。テーマ④では、ものづくり環境学科の久保塚香織さんが司会の大役を果たした。その後の交流会には宮代町エコキッズサミット卒業生の高校生達も参加し、盛況の裡に終了することができた。



講師を交えたパネルディスカッション

ものづくり環境学科と創造システム工学科主催の合同講演会が11月29日（土）、LCセンターで開催された。今回は植物の環境への適応、バイオマスエネルギーの活用に関する最新の話題について、企業と大学の専門家が講演を行った。

前半は「動けない植物は、どうやって環境に適応しているか？」をテーマに本学共通教育系の芳賀健講師が植物の光に対する反応と植物ホルモンの働きについて紹介。植物は動き回ることが出来

宮代キャンパスAED設置場所

昨秋、宮代キャンパス内のAED（自動体外式除細動器）が増設され、既存設置分と併せた合計設置数は15台となった。設置場所は下図の通り。設置場所のPDF版は本学WEBサイトからダウンロード可能となっているので、パソコンやスマートフォンに保存する、印刷して掲示するなどして日頃からの設置場所把握に活用していただきたい。



- | | |
|---------------------------|---------------------------|
| ① E1棟／機械システム学群棟(1階) | ⑨ S2棟／LCセンター(1階) |
| ② 12号館／学友会館(1階) | ⑩ 9号館／電気電子工学科実験研究棟(1階) |
| ③ 1号館／本館(2階) | ⑪ 14号館／情報工学科実験研究棟(1階) |
| ④ 11号館／工業技術博物館(1階) | ⑫ E21棟／ものづくり環境学科実験研究棟(1階) |
| ⑤ W2棟／生活環境デザイン学科実験研究棟(1階) | ⑬ 野球場トイレ |
| ⑥ W10棟／建築デザイン学群棟(1階) | ⑭ 陸上競技場ポンプ室 |
| ⑦ W21棟／体育館(1階) | ⑮ 51号館／守衛所 |
| ⑧ S21棟／合宿棟(1階) | |

第46回若杉祭開催報告

みんなで大学祭を「MAKE」した3日間

第46回若杉祭が11月1(土)から3日にわたり開催された。今回のテーマは「MAKE」。このテーマには、来場者も含め全ての人の手で若杉祭を作りあげるといった想いと、本学の「ものづくり」という意味が込められていた。

例年通り多くの団体が参加し、コスプレショーや本学で製作されたフォーミュラカーの展示、人気声優「野中藍」のトークショー、更に若杉祭最大のイベントである「秋のか

らっ風こんさあと」が開催された。今回は人気上昇中のガールズロックユニット「PASSPO」とアイドルグループ「palet」の2組を招いてライブが行なわれ、会場の体育館には300人以上の観客が訪れ、楽曲に合わせてサイリウムを振るなど、熱気と興奮で大いに盛り上がった。

期間中には初日に第15回ホームカミングデー、2日目に恒例となっている建築設計競技表彰式も同時開催された。



【上段・下段左】若杉祭で開催されたイベント、模擬店など 【下段中】ホームカミングデー 【下段右】建築設計競技表彰式

教育改革シンポジウム

ウィークデー・キャンパス・ウィジット

高校生の進路選択への理解を深める

理工系の人気復活で本学の志願者は増加しているが、進学率が飽和する中で少子化が進み、昨春の入学率が定員割れした4年制大学は46%に上った。志望大学に入り易くなる一方、本学志願者の8割を占める普通科



講師の倉部氏

「22.6%まで増加」「1人は一生独身」というデータを示しながら、高校生のキャリア教育プログラムとして大学の普及の授業に参加する取組「Wednesday Campus Visit」の目的や実施内容について、NPO法人ニューベリーの倉部史記氏から説明を受け、高校生の進路選択への理解を深めた。30年後の職業を見据え

ファイリピン・セブ州 工科系大学一行来学

10月27日(月)、ファイリピンのセブ州立工科大学の学生5名と教員7名からなる一行が来学した。目的は本学の教育研究設備の視察で、「埼玉・セブものづくり人材育成事業」の一環として実施された。

一行は教員と学生のグループに分かれて学内を視察。教員グループは学長表敬のあと、本学執行部メンバーと昼食を共にしながら懇談を行った。午後には超高電圧研究センターなど6箇所の教育研究施設を訪れ、写真を撮影しながら熱心に説明を聞いていた。



学内施設や研究室を興味深く見学する学生

た進路選択、興味のある職業に向けた学部選び、大学ごとの教育内容の比較検討など、高校での進路指導は益々難しくなっている。高校生たちが大学の普段の授業に参加することで将来を思い描き、自分なりのモトサシ

彩の国連携力育成プロジェクト

参加4大学から実施状況を報告



本学の実施状況を説明する勝木准教授

10月30日(木)、第44回教育改革シンポジウムは、「彩の国連携力育成プロジェクト」の概要と実施状況の報告会として実施された。報告者は埼玉県立大学、埼玉医科大学、城西大学と本学の4大学でプロジェクトの企画・運営の中心を担う教員、総勢8名であった。プロジェクトの概要説明の後、これまでの主な取り組みとして、4大学の学生が学びを共有できることが望まれており、本学では主に生活環境デ

就職支援情報

◆業界・業種セミナー

平成27年度卒業・修了予定者の採用選考活動の開始時期と広報活動は卒業・修了年度に入る直前の3月1日以降、選考活動は卒業・修了年度の8月1日以降にと大きく変わることとなった。

この変更は短期決戦となるこの予想から、本学では、12月と2月にキャリア教育の一環として「業界・業種セミナー」を実施することとした。本学学生の採用実績のある企業約180社を招き、業界や業種の特色並びに業務内容について詳細の説明をいただくと同時に、本学先輩が同行し

2つのテーマで就活を支援



添田氏からマナーの基本などについて説明を受ける女子学生

た3月の広報活動開始に合わせて好スタートが切れる体制とした。

「女子学生就活セミナー」を実施した。セミナーでは、スーツスタイルの着な

環境コミュニケーション

埼玉県と地元企業

ものづくり環境学科による共同授業

産業活動に伴って発生する化学物質に対する不安を解消し、環境リスクを低減するために重要なプロセスが、住民・事業者・行政が意見を交わす「環境コミュニケーション」である。昨年に続き、今年も埼玉県環境部



企業の環境対策について熱心に質問する学生

本学教員から熱心な質問があり、情報交換・意見交換が行われた。全学の教職員を対象としたプロジェクトの説明の機会は初めてであったが、概要と意義について理解を広める上で有意義であったと言える。

ポイントから始まり、一人ひとりに手渡された化粧品の試供品を使い、手鏡を覗き込みながら就職活動のための実践的メイクの基礎を学んだ。次に、内定を勝ち取った4年生の先輩3名による「内定報告会」を、パネリスト添田真実氏（ANA入社。18年間在籍後、コンサルタント業界へ転職、2013年独立）の進行のもと実施した。就職活動中の苦労話や企業選択の際の決め手となったポイントなど、普段では聞くことの出来ない生の貴重な体験談を聞くことができた。『今後の活動の励みとなった』とこれから始まる就活に積極的挑戦していく力が湧いた。など、アンケート結果には前向きに捉える意見が多くあった。また昼食時には「女子大生ランチ」の試食をしながら、先輩と懇談する機会が設けられた。最後に、再び添田氏により、「職業人になることの意義・目的を理解する」「マナーの必要性を理解し、基本の型を習得する」という二つの内容に沿って、氏の亲身体験を織り交ぜた講話を聞いた。和やかな雰囲気の中にも、緊張感を伴った就活スタートに向けての貴重な企画となった。

学生の活躍・活動報告

東京デザイナーズウィーク

学校作品展 学生賞に入賞

10月25日(土)から10日間にわたって開催された世界有数のデザインイベント「東京デザイナーズウィーク2014アジアアワーズ学校作品展」に、昨年に続き建築学科・生活環境デザイン学科(合同)と機械工学科の2チームが出展。このうち機械工学科の片見正樹君、森渥平君、小林竜賞君による作品「PU L P Fiction」が学生賞に入賞した。「廃紙の再誕」をテーマに、古新聞やダンボールなどの廃紙を独自の方法によって成型し、ユニークな質感をもつアート作品に仕上げた。最終審査で賞を果たした。受賞に際し片見君は「大舞台で入賞できたことは大変嬉しい。制作に関係して下さった方々に感謝の気持ちでいっぱいです」とコメントしている。

2名が成績優秀賞

8月6日(水)、中央職業能力開発協会主催の国家技能検定試験(普通旋盤)が本学機械実工学科教育センターで実施され、機械系の学生3名が2級を、2名が3級を受験し、全員が合格した。そのうち石田隼人君と吉田歩さんが成績優秀賞を受賞し、11月27日(木)に埼玉会館で表彰された。試験では課題製作による実技試験と学科試験が課せられた。受験者は春休み中に準備に入り、春学期から授業時間の合間を縫って試験対策を重ね、合格へと至った。この半年間の努力によって養われた積極性や計画性、行動力は、彼らの今後の学生生活や就職活動において大きな力となるだろう。受賞に際し石田君は「ご指導いただいた先生やセンター職員の方々に感謝しています。更に技術を磨き、社会に貢献できるエンジニアを目指したい」と語った。同センターでは引き続き学生の技能検定試験への挑戦を促し、資格取得支援を継続していく。

イルミネーションで冬の夜を演出

11月中旬より、ものづくり環境学科卒業生制作のイルミネーションが東武動物公園のエントランス前に設置され、来園者の目を楽しませている。情報工学科石原研究室の学生は、プロジェクトマップ要素を取り入れたイルミネーションを制作。大学に程近い宮代町の施設「進修館」において12月に3回実演され、好評を得た。



東武動物公園の依頼により制作された、動物をモチーフとしたイルミネーション



進修館の柱や壁面、芝生を彩るイルミネーション

人事異動

- 【任用】(1月1日付)◆堀越仁事務職員(学生支援部就職支援課)【退職】(10月31日付)◆西原沙久麻事務職員(財務部財務課)
- ◆石原次郎助教情報工学科/出張先IIフランス(10/25~11/4)/目的IIラキャトリエム・イマージュII第四の画像展

2014に出展

- ◆秋元俊成助教創造システム工学科/出張先II中国(10/26~10/29)/目的II2014中国国際福祉博覧会 中国国際ハビリ博覧会におけるロボット展示
- ◆成田健一教授建築学科/出張先II中国(10/31~11/2)/目的II上海交通大学における本学学部入試の実施と学生募集活動
- ◆呉 志良准教授留学生別科/出張先II中国(10/31~11/9)/目的II上海交通大学における本学学部入試の実施と学生募集活動
- ◆古閑伸裕教授(機械工学科)/出張先IIベトナム(11/1~11/5)/目的II協定機関における学生募集活動
- ◆桑原拓也助教(ものづくり環境学科)/出張先II韓国(11/5~11/8)/目的II日韓プラズマ・静電気応用技術コンファレンスでの論文発表
- ◆小田恭市教授(専門職大学院技術経営研究科)/出張先II中国(11/22~11/25)/目的II特定課題研究(修士論文)の指導
- ◆野口憲治助手(建築学科)/出張先IIオランダ・ドイツ(11/24~12/1)/目的IIライデンおよびミュンヘン国立民族学博物館所蔵の町屋模型の調査
- ◆武田光史教授(建築学科)/出張先IIタイ(12/19~12/24)/目的II学生募集活動とKMITT国際インターンシップ参加学生の引率
- ◆劉 雯講師(共通教育系)/出張先II中国(12/24~12/31)/目的II留学生別科入学試験の実施と学生募集活動等

宮代より
宮だより
192号



撮影チームを作り取材に出かけよう

宮代町インターネット放送局では、町内のスポーツや文化活動等を動画配信しています。取材や動画制作の主体は地域の皆さん。友人や気の合う仲間と撮影チームを作って活動することもできます。

編集後記

▼輝かしい新年に、フランスの小説家・批評家であるアンドレ・ジイドの言を伝えたい。彼は個人主義的立場から社会制度や既成道徳を鋭く批判したことで知られている▼その著書『新しき糧』には、次のような記述がある。『各人のなかには驚くべき可能性があるのだ。お前の力とお前の若さを信ぜよ。たえず言い続けることを忘れるな。』ばく次第でどうにでもなるのだと▼それぞれ人間には、信じられない程の可能性がありそれを大切にしなければいけない、という大意だろう。彼は「改造すべきは単に世界だけでなく、人間だ」とも言っている▼これは、自身の力と若さの情熱を信じて、自らを叱咤激励しつつ挑戦を続けなさい、との意味になるだろう▼それこそが、あなたの隠された可能性を生かす唯一にして最善の道なのだからと。▼新年が良き年であることを祈念している。【信】

第9回 ビジネスプランコンテスト

「防犯小窓」など、技術を活かした16プランが受賞

今回は153件(内グループ88件)、299名の応募があった。9月19日(金)に書類選考通過者による最終のプレゼンテーション審査を実施し、16件の受賞者を決定した。10月31日(金)の表彰式において、受賞者に賞状と副賞が贈呈され、各受賞プランのプレゼンテーションが行われた。第二部の特別講演では、講師の藁谷篤邦氏から「ホンダの夢を世界の空に」をテーマに「ホンダジェット」のもののづくりと開発の講演が行われ、本学学生142名を含む215名が聴講した。



「防犯小窓」の説明を行う菊地君



特別講演講師の藁谷氏

審査結果	氏 名	プラン名
NITEC埼玉産学交流会賞	菊 地 和 明	ドアを開けずに物を受け取れる防犯小窓
川口信用金庫賞	木 曾 亮 太	広告仲介! ~無料汗拭きシート配布~
宮代町長賞	鈴 木 次 元	高齢者ツアー (OPE)
審査員特別賞	鈴 井 峰 一	人工筋肉を使った製品の開発
優秀賞	山 本 達 也	日本工業大学の学生を対象にした人材派遣サービス
優秀賞	経 田 耕 平	パスタのファストフード化
優秀賞	梅 澤 健 大	雪かき業者
優秀賞	荻 野 知 揮	World3 世界を繋ぐネットショッピング会社を目指して
優秀賞	足 利 口 瑛	ガレージスペースレンタル事業の提案
優秀賞	笹 智 生	万能台作業台事業
優秀賞	廣 田 洸 樹	3Dプリンターを使った記念品事業
優秀賞	宮 坂 貴 希	重量感知による照明の点灯機構
優秀賞	橋 本 大 友	イラストSNSアプリケーションの開発事業
優秀賞	瀬 戸 部 樹	空間を活用する棚作り
優秀賞	浅 野 瑛 太	自分でアレンジできる花束を提供できるサービス
奨励賞	伊 藤 直 輝	地面に落ちない箸
奨励賞	中 島 昂 郎	
奨励賞	植 竹 大 友	
奨励賞	阿 部 大 友	
奨励賞	大 矢 信 介	
奨励賞	伊 藤 慶 亮	
奨励賞	丸 橋 優 稀	
奨励賞	西 口 川 啓	
奨励賞	森 村 久 直	
奨励賞	中 阿 宮 井	
奨励賞	阿 宮 河 井	
奨励賞	河 井 堂 雅 人	
奨励賞	藤 堂 雅 人	

工業技術博物館講演会

ゼンマイはエコ社会の救世主!

11月19日(水)の午後、学生会館で工業技術博物館後援会の秋季特別講演会が開催された。11月1日(土)~22日(土)まで工業技術博物館の二階展示場で開催された第23回特別展「生活の中で活きる機械動力」改題で注目されるゼンマイの変遷とメカニズム」に合わせて開催されたものである。特別講演会では、富山県黒部市にある長谷川ゼンマイの代表取締役社長長谷川光一氏を招き、「ゼンマイはエコ社会の救世主!」という題目で講演して頂いた。ゼンマイの歴史・特質から、構造、製造技術、用途まで、写真と映像を多数用いて話され、高山会長など後援会員、柳澤理事長、波多野学長など本学幹部、機械科学生は同氏のものづくりへの情熱に感銘を受けた。その後開催された後援会の懇親会では、長谷川社長、理事長、学長などを囲んで、なごやかな懇談が持たれた。



特別講演会講師の長谷川氏

下田寮・天元山荘

廃寮及び利用最終日のお知らせ

本学園所有の学外厚生施設のうち、下田寮と天元山荘の2施設は、廃寮する運びとなりました。廃寮日は、平成27年3月末日と決定しています。が、利用の最終日は同年1月末日とします。なお、赤倉山荘の運営は今後も継続致します。

宮代町インターネット放送局では、町内のスポーツや文化活動等を動画配信しています。取材や動画制作の主体は地域の皆さん。友人や気の合う仲間と撮影チームを作って活動することもできます。